

台東区の課題と取り組み

ここでは、台東区の課題と取り組みについて、平成19年度から20年度にかけての主な状況を取り上げます。なお、以下の3つの分野は、基本構想（☞1ページ）の3つの将来像に基づいています。

産業・観光・文化の分野では

世界的な経済危機の影響によって、区内中小企業の経営は一段と厳しさを増しています。そこで経営安定化に向けて、専門家による相談窓口の開設や、緊急融資を実施しています。

外国人も含め多くの観光客が訪れる「国際観光都市」として、これからも多くの人に訪れてもらうためには、本区の魅力をさらにPRする必要があります。そこで、文化専門ホームページを開設するなど、区の魅力を様々な方法で区内外へ発信しています。

朝倉彫塑館が国の名勝に指定されるとともに、国立西洋美術館が世界文化遺産の候補に推薦されるなど、区内には様々な文化資源が存在しています。これまで受け継がれてきた豊かな文化は、まちの魅力を形づくるものであり、その保存と活用に積極的に取り組んでいます。

まちづくり・環境・生涯学習の分野では

本区に今以上にぎわいをもたらすためには、観光客や買い物客がまちをめぐりやすいようにする必要があります。そこで上野中央通り地下駐車場を整備するなど、まちの利便性や回遊性を高める取り組みを進めています。

平成23年に墨田区の押上・業平橋地区に東京スカイツリーが開業する予定となっていますが、隅田川を挟んで対岸にあたる浅草地域との連携が重要な課題となっています。平成19年6月に「浅草地域まちづくり総合ビジョン」を作成し、このビジョンに基づいてまちの魅力を高める取り組みを進めています。

平成20年度から京都議定書の約束期間が始まりました。その中で定めた二酸化炭素（CO₂）の削減目標を達成するためには、区民・事業者・区が一体となって地球温暖化・ヒートアイランド対策などに取り組む必要があります。そこで家庭、学校、職場など様々な場面で環境活動に取り組めるよう、情報提供や活動支援、環境・リサイクル講座などの充実を図っています。

福祉・健康・子育て・教育の分野では

本区は、人口に占める高齢者の割合が高く、今後さらに高齢化が進んでいくと予想されます。現在も様々なサービスを行っていますが、高齢者のために必要な医療や、介護サービスを提供する施設が十分にあるとはいえない状況です。そこで、区立病院や老人保健施設、特別養護老人ホームといった施設の整備を進めています。

子育てに対して孤独や不安を感じる親のために、区は安心して子どもを産み育てることができるよう支援する必要があります。そこで、子ども家庭支援センターを整備して親同士の交流の場を設けたり、乳幼児健診受診時の相談や妊婦健診受診費用の助成などを行っています。

また、多様な保育ニーズに対応する取り組みとして、認定こども園の整備や認証保育所の誘致などを進めています。

子どもたちが基礎的な知識と技能を習得し、確かな学力を身につけることを目的として、区は、独自に講師を採用するなど学力向上への取り組みを進めています。また、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育てていくために、「心の教育」に積極的に取り組んでいます。

